

令和5年度環境DNA分析による海域魚類調査結果

1 調査期間

- ・水質常時監視調査の採水に併せて、令和5年4月から令和6年3月まで毎月調査を実施した。

2 調査地点

- ・計11地点【内7地点では底層（海底上1m）を含む】において実施した。

	地点番号	調査地点	表中層	底層
A 類型	70	須磨港・西防波堤	○	
	71	須磨海域・JR 須磨駅前	○	
	72	須磨海域・海釣公園	○	○
	82	ポートアイランド南・沖合(3)	○	○
	74	垂水海域・垂水漁港	○	
	75	舞子海域・舞子漁港	○	
	83	垂水海域・沖合	○	○
B 類型	62	ポートアイランド南・沖合(1)	○	○
	78	六甲アイランド南・観測塔	○	○
C 類型	65	六甲アイランド南・沖合(3)	○	○
	76	第4工区南・沖合(1)	○	○



3 調査結果

(1) 検出種数

- ・全地点合わせて2綱16目75科183種の魚類が検出された。

(2) 高頻度検出種

- ・マイワシ、カタクチイワシ、マアジ等の回遊魚、クロダイ、スズキ等の内湾・河口域、マダイ等の岩礁帯を好む種などは、各水域類型で比較的高頻度で検出された。

(3) 環境基準水域類型別の検出種数

- ・環境基準水域類型別の検出種数では、調査範囲の西側（垂水海域～須磨海域）に位置するA類型において検出種数が多く（172種）、次いでB類型（93種）、C類型（75種）の順となった。

(4) A類型海域において検出された魚種

- ・明石海峡が近く、比較的潮流の影響を受けやすい水域である。回遊性のブリ、マサバ、サワラ、岩礁域を好むイサキ、メジナ、砂底を好むイカナゴ、カワハギ、藻場に生息するホンベラ、砂泥底を好むマコガレイ等、様々な生息場所でみられる計172種が検出され、海産魚類の生息環境として多様な条件が備わっているものと推定される。なお、今年度初めて検出された種として、岩礁性のアオヤガラ、ヒフキヨウジ、ニシキハゼ等が上げられた。

(5) B類型海域において検出された魚種

- ・A類型の海域に比べ、調査地点が2か所だけであることもあり、検出種数は少ないが、全地点に共通して高頻度で検出されたマイワシ、カタクチイワシ、クロダイの他、回遊性のブリ、マアジ、サワラ、内湾、河口域を好むボラ、スズキ、岩礁域を好むカサゴ、キジハタ、砂底を好むイカナゴ、砂泥底を好むホウボウ等、93種が検出された。このうち、今年度初めて検出された種として、砂泥底を好むナガダルマガレイが含まれる。

(6) C類型海域において検出された魚種

- ・調査範囲の中では最も内湾性で、水質上も比較的汚濁傾向が強い水域であるが、高頻度検出種であるカタクチイワシ、ボラ、クロダイの他、回遊性のサヨリ、マアジ、マサバ、内湾、河口域を好むコノシロ、スズキ、岩礁域を好むカサゴ、キチヌ、マダイ、砂泥底を好むハモ、マコガレイ等、75種が検出された。